

252億円へ 需要捕捉

磨棒鋼、冷間圧造用鋼線メーカーの大手、鈴秀工業（本社＝名古屋市中緑区、鈴木雅貴社長）は、2025年度（26年9月期）決算において、売上高で過去最高となる213億円を計上する増収増益だった。拡大する半導体製造装置向け需要を受け止める能力増強、効率化投資が奏功した格好。創業100周年を迎え、3力年中期経営計画の最終年度とする今期は売上高で252億円を目指す。

小野田市の稼働開始

要捕捉で業容を拡大し

ステンレス鋼や特殊鋼の冷延メーカー、特殊金属エクセル（本社＝東京都豊島区、水谷徳次郎社長COO）は、

特殊金属エクセル

高感度磁歪クラッド材 シートックに初出展

Magnexcel（マグネクスセル）を開発した。開催中の展示会、CEATEC2026（シートック）に初出展し、製品を初めて披露した。磁界で異なる特性を持つパーメニジュールと純ニッケル（TOCKIN）

磨棒鋼、冷間圧造用鋼線メーカーの大手、鈴秀工業（本社＝名古屋市中緑区、鈴木雅貴社長）は、2025年度（26年9月期）決算において、売上高で過去最高となる213億円を計上する増収増益だった。拡大する半導体製造装置向け需要を受け止める能力増強、効率化投資が奏功した格好。創業100周年を迎え、3力年中期経営計画の最終年度とする今期は売上高で252億円を目指す。



特殊金属エクセルのブリスとTOCKIN Magnexcel

開発したマグネクスセルは、同社の冷間圧延技術によって、パーメニジュールと純ニッケルを強固にクラッド材化。中間層に界面拡散層を生成することなど、高効率の磁歪効果を発揮する。パーメニジュール単体に比べ、発電性能は約6倍、音響エネルギーは約10倍の性能を確認した。リール・リールで製造できるため、連続プレス機で量産できる。振動エネルギーを電力に変換するだけだけでなく、省電力で大きな音響エネルギーを生み出すため、補聴器やワイヤレスイヤホン、スピーカーなどの小型化や軽量化に貢献する。

展示会のブリスでは、板厚0.2mmのマグネクスセルを展示。振動で電力を生み出す様子を確認できる。CEATECは16日まで千葉市の幕張メッセで開催。特殊金属エクセルは、東京都中小企業振興公社の東京ビジネスフロンティアアブ



新倉庫の敷地面積は約1万平方メートルで、3棟で構成する。3万平方メートル以上の保管能力を備え、基下社長は「さまざまな母材を取りそろえて、極厚板などニッチな需要分野でも短納期化などの対応力を強化していく」としている。極厚板などの母材や大型鋼構造物の荷役に対応するため、40ト

27トのクレーンを各3台設置する。新設する40トクレーンの製作用鋼材には、東京製鉄の低CO₂鋼材「ほぼぜロ」を採用した。加工事業の主力拠点であるちきり事業所は、2021年に第1工場が本稼働し、24年には第2工場を新設した。鋼板を曲げるベンディングマシンや溶接

の加工体制を整えてきた。同社は洋上風力発電設備や護岸工事で使用するパイル関連などの需要拡大を見込む。保管機能の集約に伴い、ちきり事業所内で確保できるスペースも加工事業などに活用する方針だ。

中でもちきりアイランドでは岸壁の整備が計画されている。「新倉庫をばの岸壁が完成すれば、母材や大型鋼構造物などの製品を海上輸送で入出荷できるようになる」と基下社長と期待する。

豪グレゴリーの原料炭事業譲渡

双日

双日は14日、100%子会社の双日ティベロップメントなどを通る豪州クイーンズランド州のグレゴリー・クライナム原料炭事業の譲渡契約を締結したと発表した。譲渡先や譲渡金額などは非公開。今後は関係当局の承認などを経て、譲渡が完了する予定。

双日は2019年に三菱商事とBHPから同事業の権益100%を取得した。成長基盤の強化を目的にポート

鉄鋼輸入の保護

トルコ、適用の

トルコ鉄鋼生産者協会は、このほどホームベ

EU、SG後継措置施行後 生産能力000万ト相当再開

輸入することを認め、改訂された関税割当（TRQ）として50%

始

影

界

続

可

0

鋼

の

少

同

指

と

強

る

ド

権